

ハトムギ栽培情報 第3号

晴れの日を最大限活用して、培土作業（分施肥の場合は、追肥も遅れないように）を行いましょう。

水不足になるとハトムギの葉枯症状が発生し、不稔粒の発生、収量の低下を招きます。無降雨が続く場合は、「かん水」を行い、枯れ上がりを防止しましょう。

● 培土

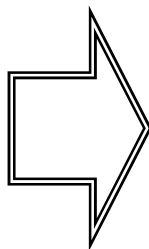
- ・ 2回目の培土は、は種後50日頃（草丈80～90cm）に実施しましょう。
※天候をみて培土時期が早くても培土が可能であれば実施しましょう。

● かん水

- ・ ハトムギは、出穂始め（7月下旬）から成熟期（9月中旬）にかけ、最も水分を必要とします。
- ・ 干ばつにより水分不足になると、
 - ① 肥料の吸収量が減少し、生育が停滞
 - ② 蒸散量が吸水量を上回り、葉巻が発生
 さらに症状が進むと、葉は上位から枯れ上がり減収します。



水不足による葉巻発生



上位葉の枯れ上がり症状

葉先がよれてきたらすぐにかん水を行いましょう

- ・ うね間かん水は、ほ場全体に水がいきわたるように行い、その後は自然落水としましょう。



近年、アワノメイガの被害が多発しています。遅れずに確実に防除しましょう

● その他

- ・ 病害虫および雑草防除は「ハトムギ栽培情報2号」を参照ください。
※除草剤「プリグロックスL」（畦間処理）の使用は、出穂前までなので、注意してください。
- ・ 畦畔でのイナゴ類の発生が見られます。ハトムギでイナゴ類に効果がある農薬はありません。集落ぐるみで草刈りを徹底し、エサ場をなくしましょう。